

令和6年度 名古屋市芸術賞受賞者の概要

芸術特賞 ^{つじ}辻 ^{まさき}真先（92歳） 文芸



昭和7（1932）年名古屋生まれ。昭和29（1954）年に名古屋大学文学部を卒業し、日本放送協会（NHK）入局。以降、制作進行、演出、脚本、企画、制作などテレビ番組の全般に携わる。自身が初めて演出に加わった作品「バス通り裏」は人気を博し、昭和36（1961）年にはドラマ番組として菊池寛賞を受賞。その他にもNHKテレビ「お笑い三人組」、手塚治虫原作の「ふしぎな少年」、江戸川乱歩原作の「月と手袋」などの数々の人気作品を手掛け、その演出作品は100本を超えている。

昭和37（1962）年同局を退局後は、テレビアニメの脚本活動に注力する。「鉄腕アトム」、「エイトマン」にはじまり「サザエさん」、「名探偵コナン」などの国民的作品を数多く手掛け、アニメ雑誌「アニメージュ」が主催するアニメグランプリでは昭和54（1979）年の第1回から第5回まで連続で脚本部門賞を受賞した。

1965年からは意欲的に執筆活動にも取り組む。シュブナイル・ノベルに始まり、近年はミステリ作品や、名古屋を舞台とした作品を中心に名作を世に多く送り出している。昭和57（1982）年、日本推理作家協会賞長編部門受賞。平成20（2008）年、中日文化賞受賞。平成21（2009）年、本格ミステリ大賞小説部門受賞。平成31（2019）年、日本ミステリー文学大賞受賞。

御年92歳であるが、令和6（2024）年11月には最新作の『命みじかし恋せよ乙女 少年明智小五郎』を発行するなど現在も現役で活躍中。長年の活動は当地域の文化芸術の振興に大きな役割を果たしており、その功績は多大である。

令和6年度 名古屋市芸術賞受賞者の概要

芸術奨励賞 きねや 杵屋 さんたろう 三太郎（56歳） 伝統芸能（長唄演奏）



平成 2（1990）年に東京藝術大学音楽部邦楽部を卒業した後、芸を磨き平成 16（2004）年に名古屋を代表する長唄名跡である杵屋三太郎を六代目として襲名。

平成 14（2002）年には、名古屋市民芸術祭審査員特別賞を受賞。平成 20（2008）年には第 24 回名古屋市芸術創造賞を受賞するなどの実績もさることながら、教育の分野でも精力的な取り組みを見せる。平成 14（2002）年から現在にいたるまで、児童への三味線教授活動に尽力。複数の市内大学等で三味線講習を行うなど、後進の育成に余念がない。

代々の三太郎が集めた古典を紐解くことに軸を置きながら、令和 4（2022）年、作詞 安田文吉氏（近世芸能研究者・名古屋市芸術特賞授与者）で長唄「恋の熱田めぐり」を作曲し、新たな楽曲の創作も積極的に行っている。

継承・主宰する一門会「杵三会」の 30 回記念では、熱田神宮にて同曲の奉納演奏を行い、熱田神宮の見どころや由緒が盛り込まれた歌詞を華やかで格調高く歌い上げた。

古典の保存はもちろん、若い世代への文化継承、新たな創作活動に取り組むそのひたむきな姿勢は、今後のさらなる活躍が期待される。

令和6年度 名古屋市芸術賞受賞者の概要

芸術奨励賞

にんていとくていひえいりかつどうほうじん
認定特定非営利活動法人ポパイ（平成17年/2005年設立）

音楽 舞踊 美術



平成 17（2005）年に設立され、平成 18（2006）年より名古屋市北区で障がい者福祉支援・活動事業「オリーブ」を開所。生活介護事業や就労継続支援事業、グループホーム事業などを展開しながら、アートや表現活動などを障がいのある人たちの仕事にすることを目標に「表現する仕事」を掲げ、国内外での作品展示や販売、出演、ワークショップの実施を行っている。また、大学や企業との連携を積極的に展開・拡大している。

平成 23（2011）年より半年間実施したアーティストを招いての事業所外ワークショップをきっかけに、福祉とアートの相乗効果に着目するようになる。平成 25（2013）年にはダンスグループ、平成 26（2014）年には音楽バンドの活動を始め、同年に創作活動を主とした事業所も開設した。その後愛知県主催「あいちアール・ブリュット展」に参加し、作品やパフォーマンスを披露。平成 28（2016）年第 16 回全国障害者芸術・文化祭あいち大会（主催：厚生労働省、愛知県、名古屋市）では企画運営にも携わるようになり、年々活躍の舞台を広げている。

令和 6（2024）年度からは、愛知県の「愛知県障害者芸術文化活動普及支援事業（あしょげぶセンター）」を受託するなど、多様な芸術表現活動を社会に広める拠点的役割を担いつつあり、今後のさらなる活躍が期待される。

令和6年度 名古屋市芸術賞受賞者の概要

芸術奨励賞 しらかば 白樺 やお 八青（65歳） その他（ボイスパーフォーマー）



名古屋市出身。昭和56（1981）年に名古屋演劇アカデミー第5期として入所。在籍中にミュージカル「ザ・ファンタスティックス」のオーディションに合格し、デビュー。平成元（1989）年、名古屋市文化振興事業団公演及び名古屋市政100周年記念行事としての「ザ・サウンド・オブ・ミュージック」で主役のマリア役を務めるなど、精力的なミュージカル活動に取り組む傍ら、多彩な領域で活動の幅を広げていった。特に、音楽、演劇、文学、身体表現などの境界線をなくした「ボイスパーフォーマー」としての活動を本格化させ、スタンダード曲からドラマを創作、演じ歌う「ドラマティックライブ」、詩と音楽を緻密に組み合わせた「詩人と作曲家の空想的共演」、幼児向け「歌う絵本ライブ」等様々な形態で実施している。

その他にも平成12（2000）年からは、人々の声と言葉を磨き、健康で自分らしい表現力を得るための自己解放を目指した「ことばのまなびや」を主宰し、レッスンも行う。

また、地域の文化振興活動においても平成8（1996）年には出身地・守山区にて「守山の文化を考える会」を設立。同会にて企画した公演は平成18（2006）年、名古屋市民芸術祭賞審査員特別賞を受賞。

芸術の芽を育てる感性豊かな取り組みと、地域の芸術文化の大切さを示し続ける活動に、今後のさらなる飛躍が期待される。